

イワラピティのハンモック

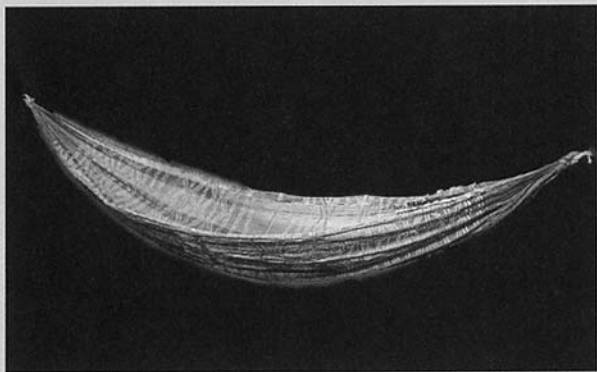
ハンモック(標本番号H213343、幅/89cm) アメリカ展示

中牧 弘允 (なかまき ひろちか)

本館民族文化研究部

ハンモックは網目状の寝具で、吊るした状態で使用する。もともとオリノコ川やアマゾン川の流域に住む熱帯低地の人びとがヤシなどの植物繊維の紐を編んで作っていた生活用品である。それをコロンプス以降の西欧人、とくに船乗りたちが船内で使用し、世界各地に伝播させた。語源はカリブ海のアラワク語系住民の単語にあり、スペイン語ではアマカ(hamaca)という。アザラシの腸で作る防水着アノラックが、東エスキモー語に由来するのと似たような経緯をたどって普及した。

ハンモックは通気性とみ、地上の虫から身をまもることができる。とりわけ雨季は高温多湿で虫の種類も多い熱帯ならではの寝具といえる。また、それにくるまって寝れば防寒にもなる。揺らすと安眠がうながされ、子どもを寝かしつけるにも便利である。身体をできるだけ水平にたもちた



いときには、はすかに足を伸ばして寝る。ハンモックは家のなかで使われるだけではない。船のデッキに色とりどりのハンモックを吊るして寝る習慣は、アマゾン川流域では見なれた光景である。ただし、川風を受け、夜はけっこう冷えるので、木綿の布製ハンモックがこのまれている。

アメリカ熱帯低地の先住民がすべてハンモックを使用していたわけではない。床に毛布のよくなものにくるまる場合もあれば、焚き火の近くの地面でそのまま寝ることもある。日中熱せられた地面は表面の砂をかきのけると、夜間でもある程度あたたかい。

本資料はブリチ・ヤシの繊維と綿でできており、簡素でうつくしい装飾がほどこされている。アマゾン川の支流のひとつ、シングレー川上流域に住む民族集団イワラピティ(ヤワラピティ)のものである。